

シリーズ街並み再見8

◆春を待つ
穏やかな街並み

幹線道路沿いに点在する飲食店や銀行、のどかに広がる田畑、当麻道を挟んで寺院・神社や住宅がひしめき合う集落——と、さまざまな表情を見せる磯壁地区。「いそかへ」という音から、かつての豪族・蘇我氏(宗我部氏)に何らかの関わりのある地と推測されます。香芝市総合体育館を起点に、磯壁地区の全域を隈なく歩いてみました。

午前十一時過ぎ。さあ、気合を入れて出発です。県道下田良福寺線から国道一六八号に出て、そのまま真直ぐ南へ。六丁目あたりになると右手に住宅街が開けてきます。国道を横切る歩道橋の真下に小さな公園を見つけた。あいにく風が強くて寒かったせいかな公園には誰もいなくて、風に揺れるブランコやシーソーが寂しそうでした。ぽかぽか暖かい日には、きつと子どもたちの元気な歓声が聞こえてくるでしょう。

国道が左へ大きくカーブするち

早春の午後、磯壁地区を隈なく歩く

よつと手前を右手に向かいました。住宅地を抜けると田畑が点在、さらに西に進むと二上山がだんだん大きく見えてきます。近鉄南大阪線や国道一六五号高田バイパスを通る電車と自動車の音も次第に大きくなってきました。

◆意外に知られていなかったふるさとの名所

その昔、信貴山の城主松永弾正久秀の家来が正林院に乱入したとき、盗人が木立像の地蔵尊を背負って逃げたところ背中から火が出て燃え出したので怖くなり、途中の池に投げ捨てたとか。以来その池は肩身池と呼ばれ、いつしかカタマ池になったよつです。

住宅地図を片手に、そんな伝説で有名な「カタマ池」を探したのですがなかなか見当たりません。軽トラで通りかかった農家の人に尋ねても「さあー」の返事。気の毒になるぐらい一生懸命に應對してくださったのですが、池の名前さえ聞いたことがないとか。地元の人に



かつて当麻道を行き交う旅人の案内役をつとめた道標

さえこれほど知られていなかったとは！

それなら自力で探そうと思いつち、テクテク歩いていくつかの池を見つけました。でも、周りの風景が地図に書かれている目印とはどうも違つよつです。困つた！ 忠案にく

れていたところ、たまたま居合わせた女性がすぐ目の前を指して「カタマ池なりそつですよ」。確かに周囲の様子も地図上に示されたとおりです。二度ほど通り過ぎた場所ですが、想像していたよりずっと小さな池で、つい見過ごしたよつです。湯水期で、他の池の多くが干上がった。

◆街道を行き交った旅人たち

鳥居川の流れに沿って歩き、磯壁公民館を左に曲がると道幅が急に細くなります。正林院、法満寺、春日神社が立てつづけに見えてきました。

ているのに、カタマ池は満々と水を湛えていました。

その南方には、大和の当麻蹴速と出雲の野見宿禰とが天下第一の大相撲をとつたという伝説で知られる「舞台・腰折田」があります。

天児屋根命を祭神とする春日神社の社殿は昨年改築されたばかりで、檜の香りが漂ってきそうな真新しいですが、時代を感じさせる鳥居や常夜灯が神社の歴史を物語ります。昭和十一年の地震で社殿が大損壊した——と説明する石標と、平成十年に建立された新しい石標が並び建っているのが印象的です。

法満寺の北側、狭い道路に面した塀に「左〇〇」と書かれた道標がホース格納箱の裏に隠れるかのように設置されています。当麻道を行き交う旅人の目印だったのでしよう。解説しようと思いますが、残念。風雨にさらされた歳月の長さを感じさせられました。そのすぐ側に、小さく真つ赤なポストがある

のが目にとまりました。そういえばつい二十〜三十年前まではこんな形をした、もう少し大型のポストがあちこちにあったことを思い出しほのぼのして、いいもんだな。そんな気持ちで再び歩き始めました。

◆輝け！若者たち

と見えた香芝中学校にたどり着きました。校庭が体操服を着た生徒で埋め尽くされていることからみると、きっと大きなスポーツ大会があるに違いない！そういえば、校舎の周囲には大勢のお母さん方や子どもたちが校庭のほうに目を向けているし、走っている生徒を「〇×君、頑張れ」と応援している先生らしき人の姿も見受けられます。

好奇心にそそられて「何かあるのですか」と尋ねると、年に一度の校内駅伝大会が間もなく始まること。ラッキー。こんな偶然に出会えるなんて。

足の速い子、その後をせーせー息を切らせながらついていっている子。どの子もクラスを少しでも上位に導こうと、懸命に汗を流して走っています。若さあふれるその姿に、心の底から拍手したい気持ちでいっぱいになりました。みんな頑張れ！



出発時の香芝中学校(手前は香の池)



昨年、社殿の改装を終えた春日神社



愛嬌たっぷりの真つ赤なポスト